

網走水試の山本です。今回は、「網走湖のワカサギの調査研究」と「ウニの年齢査定研修」について、ご紹介します。

1. 網走湖のワカサギの調査研究

結氷した網走湖では、1月中旬からワカサギの氷下ひき網漁業が始まりました。道内でも網走湖はワカサギの主産地であり、地域でふ化放流事業が行われ、道内外に多くの種卵を供給しています。

2020年のワカサギの漁獲量は173トンで全道の6割を占めますが、2005年以降をみると、2013年に大幅に減少し、2016年に台風の影響に伴う減少もあり、やや低迷しています（右図）。

網走湖のワカサギは、湖内にとどまる群と夏に海に降りて秋に湖にそ上する群に分かれ、2013年の漁獲の減少では、前年の秋にそ上した魚の成長不良が確認されています。水試では漁協等と連携して、ワカサギ資源や生息環境のモニタリング等を行い、持続的な資源利用につなげたいと考えています。

2. ウニの年齢査定研修

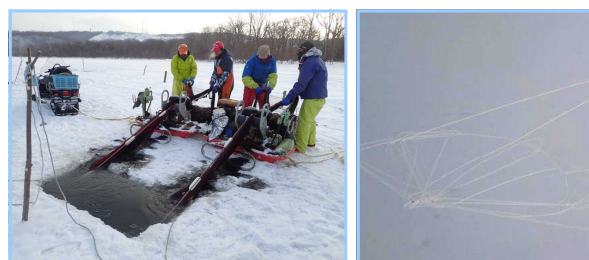
昨年11月、網走東部地区の水産技術普及指導所とともに、エソバフンウニ分布調査にあわせて、網走、斜里第一、ウトロ漁協の職員を対象に、ウニの年齢査定研修を行いました。

ウニの年齢は、肛門周辺の生殖板に形成される輪紋数を数えて査定します。当日は、奥村部長が講師となり、サンプルの研磨、焼き入れなどをして、実体顕微鏡で輪紋数を数えました。得られたデータからは、漁場での卓越発生や10歳以上の高齢のウニの混在が確認されました。

水試では多くの調査研究が行われていますが、技術・成果を活かす研修等の取組の必要性を改めて感じました。

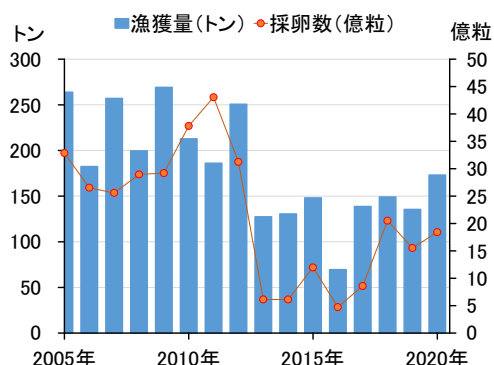
（網走水試 山本 和人）

【氷下ひき網漁業のようす】



*右の写真は網などを運ぶスノーモービルの跡

【網走湖のワカサギの漁獲量と採卵数】



【年齢査定研修のようす】



【輪紋の例（3歳）】

